

## 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IACS 小委員会 (第 24 期・第 1 回) 議事録

日時：12 月 5 日 (水) 17:00~18:10

場所：国立極地研究所 小会議室 (2F)

出席者：杉山慎、杉浦幸之助、榎本浩之、竹内望、大畑哲夫、中村卓司、東久美子

### 1. IACS 小委員会の委員長及び幹事の選出(審議事項)

第 24 期 IACS 小委員会の委員長及び幹事を決定した。委員長は東委員、幹事は西村委員。杉浦委員の所属と職名が変更になったため、委員名簿を修正することとなった。委員名簿の修正版は添付ファイルの通り。

### 2. IACS の動向

IACS の事務局役員を務める榎本委員が IACS の最近の動向について報告した。報告内容は以下の通り。

- ・一昨年に事務局役員の一部が交代した。
- ・2019 年 7 月にカナダのモントリオールで開催される IUGG のセッション提案の承認手続きが終了し、IUGG から各セッションについてアナウンスが行われつつある。IACS が主催するセッション及び IACS が他のアソシエーションと共同で開催するセッションが多数ある。
- ・IACS のメーリングリストがあり、IACS 会員登録を行うとニュースレター等の情報が送られてくる。
- ・IACS は従来から国際雪氷学会との結びつきが強いが、今後は Global Cryosphere Watch との関わりも強化しようとしている。
- ・IACS が従来から実施している氷河台帳の作成は現在も継続しており、データの提供を行っている。
- ・IPCC のリードオナー等の中に IACS 会員が 8 名入っており、IPCC に貢献している。

### 3. IUGG 分科会の動向

地球惑星科学委員会 IUGG 分科会の最近の活動について東委員長が報告した。報告内容は以下の通り。

- ・2019 の IUGG 総会で表彰される Early Career Scientist Award に 2 名を推薦し、そのうち 1 名が受賞者に選出された。今回 IACS 小委員会からは推薦を行わなかった。
- ・IUGG Year Book 2019 の日本国内委員会の体制に関する原稿を提出した。
- ・Gold medal 及び Fellow 候補者、及び IUGG の次期役員候補者の推薦をしなかった。
- ・加入国際学術団体活動情報調査表を提出した。
- ・2019 年の JpGU で「100 周年を迎える IUGG への日本の貢献」というセッションを提案したところ、ユニオンセッションとして採択され、5 月 30 日午前中の 2 コマが割り当てら

れた。一人 15 分で 12 講演の予定である。12 月 17 日が招待講演者登録の締め切りである。他の講演者については、IUGG 分科会委員で分担して、アソシエーション毎に重複がないように発表者を決めることとなった。各アソシエーションの歴史、現在のトピックス、日本の貢献、IUGG の必要性について述べるのが期待されている。IACS 小委員会から候補者に本セッションでの講演を打診することになった。

#### 4. 日本雪氷学会積雪分類ワーキンググループの活動

同ワーキンググループの活動について東委員長が青木委員（日本雪氷学会学術委員長）の代理で以下の報告を行った。積雪の国際分類の見直しが行われ、2009 年にチャールズ・フィルツ（元 IACS 会長）が中心となって UNESCO から新国際分類が発刊された。（<http://unesdoc.unesco.org/images/0018/001864/186462e.pdf>）この国際分類の見直しにあたっては、日本からは西村 IACS 小委員会幹事が委員として参加した。しかし、日本における積雪分類は雪氷学会で 1997 年に改訂が行われて以来、改訂されていなかった。積雪の新国際分類に対応し、日本の積雪分類を見直すため、日本雪氷学会の学術委員会のタスクとして積雪分類ワーキンググループを設置することとし、2017 年度秋の雪氷学会理事会において承認された。同ワーキンググループで新国際分類の翻訳案を作成する予定であるが、そのスケジュールや、日本雪氷学会での承認手続き等について議論を行っている。

#### 4. IACS 役員の推薦

榎本委員から次期 IACS 事務局役員の推薦依頼があった。IACS 事務局役員は 4 年に一度改選されるが、来年の IUGG 総会で役員の一部が交代するため、ノミネーション・パネルが設置され、議長の Greve 教授（北海道大学）宛てに候補者の推薦を行うこととなった。榎本委員は Sea Ice, Lake and River Ice Division の長を 2 期 8 年務めたため、次期は退任する。他の役員も本人の希望により退任する可能性がある。IACS 小委員会として日本の海氷研究者を榎本委員の後任として推薦する方向で、今後、候補者に打診することになった。

#### 5. その他

- ・2019 年の IUGG 総会に IACS の日本代表を派遣する場合、IUGG から出席者の氏名の登録を求められており、1 月上旬までに IUGG 分科会に氏名を報告する必要がある。IACS 小委員会の東委員長が出席できる場合は東委員長が、出席できない場合は榎本委員を日本代表として登録することになった。
- ・IACS の活動が日本であまり認識されていないので、今後、日本雪氷学会等を通じて情報を積極的に流すように努めることになった。
- ・IACS では Early Career Scientist awards を募集中。また、2019 年の IUGG 総会参加のための旅費サポートも募集している。これらについて日本雪氷学会のメーリングリストを通じて会員に周知させることとなった。